

《担当者名》准教授 / 柳川 芳毅 准教授 / 町田 拓自

【概要】

原著論文の抄読を中心とした演習を通じて、英文読解力、データ読解力、考察力、知識応用力を高めることを目的とする。

【学修目標】

- ・医薬品の毒性発現に関する文献を抄読しながら新薬開発と薬害問題の現状について学び、毒理学分野における倫理的問題の重要性を理解する。
- ・免疫系に作用する新薬に関する最新の論文を抄読することによって、この領域における新しい概念に基づく医薬品開発の可能性について考察し、薬物療法の将来像を提案することができる。
- ・近年注目を集めている生理活性物質に関する最近の文献を抄読し、これらの物質の生体に対する影響およびその作用機序に関する知識を修得することで、新規生活習慣病治療薬開発への可能性について考察する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	医薬品の毒性発現と新薬-1	医薬品の毒性発現に関する文献を抄読し、新薬開発に関する理論、問題点等を説明できる。	柳川 芳毅 町田 拓自
2	医薬品の毒性発現と新薬-2	医薬品の毒性発現に関する文献を抄読し、新薬開発に関する理論、問題点等を説明できる。	柳川 芳毅 町田 拓自
3	医薬品の毒性発現と薬害-1	医薬品の毒性発現に関する文献を抄読し、薬害に関する現状および問題点等を説明できる。	柳川 芳毅 町田 拓自
4	医薬品の毒性発現と薬害-2	医薬品の毒性発現に関する文献を抄読し、薬害に関する現状および問題点等を説明できる。	柳川 芳毅 町田 拓自
5	毒理学分野における倫理的問題	新薬開発と薬害問題に関する倫理的課題点および重要性について毒理学的観点から説明できる。	柳川 芳毅 町田 拓自
6	免疫系に作用する新薬 1	免疫系に作用する新薬に関する最新の論文を抄読し、この領域における新しい概念に基づく薬物療法の可能性について説明できる。	柳川 芳毅
7	免疫系に作用する新薬 2	免疫系に作用する新薬に関する最新の論文を抄読し、この領域における新しい概念に基づく薬物療法の可能性について説明できる。	柳川 芳毅
8	免疫系に作用する新薬 3	免疫系に作用する新薬に関する最新の論文を抄読し、この領域における新しい概念に基づく薬物療法の可能性について説明できる。	柳川 芳毅
9	免疫系に作用する新薬 4	免疫系に作用する新薬に関する最新の論文を抄読し、この領域における新しい概念に基づく薬物療法の可能性について説明できる。	柳川 芳毅
10	免疫領域における薬物療法の将来像	免疫系に作用する新薬に関する最新の論文を抄読・考察し、免疫領域における薬物療法の将来像を提案できる。	柳川 芳毅
11	血小板由来生理活性物質の薬理作用とその機序	血小板由来生理活性物質の薬理作用に関する最新の論文を抄読し、新規の生活習慣病治療薬応用への可能性について説明できる。	町田 拓自
12	血管内皮細胞由来生理活性物質の薬理作用とその機序	血管内皮細胞由来生理活性物質の薬理作用に関する最新の論文を抄読し、生活習慣病治療薬応用への可能性について説明できる。	町田 拓自
13	血管平滑筋細胞由来生理活性物質の薬理作用とその機序	血管平滑筋細胞由来生理活性物質の薬理作用に関する最新の論文を抄読し、生活習慣病治療薬応用への可能性について説明できる。	町田 拓自
14	脂肪細胞由来生理活性物質の薬理作用とその機序	脂肪細胞由来生理活性物質の薬理作用に関する最新の論文を抄読し、生活習慣病治療薬応用への可能性について説明できる。	町田 拓自

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
15	骨格筋細胞由来生生活性物質の薬理作用とその機序	骨格筋細胞由来生生活性物質の薬理作用に関する最新の論文を抄読し、生活習慣病治療薬応用への可能性について説明できる。	町田 拓自

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

出席状況、学習態度、考察内容、理解度により成績を評価する。

【教科書】

無し（必要に応じてプリントなどの資料を配付する）

【参考書】

科学者・技術者のための英文論文の書き方（東京化学同人）

【学修の準備】

あらかじめ配布された文献を熟読し、セミナー内でのディスカッションに支障のないようにすること。